

国立・国定公園の総点検の取り組みについて

国立・国定公園の指定及び管理運営に関する提言（平成19年3月）

<指定に関する提言>

- ・自然公園の今日的意義と今後の方向性等を踏まえ、国立・国定公園の指定状況の評価・見直し、新規指定に向けた検討、自然公園選定要領の見直しを行う。
- ・特に下記のような対象について、すぐれた自然の風景地として評価を進める。

①優れた自然の風景地の評価の多様化への対応

- ・照葉樹林

（例：奄美群島・やんばる地域 「国立公園指定も視野に入れ詳細な検討」）

- ・里地里山

- ・海域（例：南西諸島のサンゴ礁海域）

- ・特徴的な湿地（例：湧水地群やため池群、清流と一体となった自然地域）

- ・特徴的な地形・地質、自然現象

②生物多様性の豊かな地域の評価

③生態系ネットワークへの貢献

④自然体験型利用への対応

国立・国定公園総点検事業（平成19年度～平成24年度）

■事業内容

自然公園の今日的意義と今後の方向性等を踏まえ、以下を実施。

- ・優れた自然の風景地の評価方法の見直し
- ・既存の国立・国定公園の指定状況の評価
- ・国土の自然の風景地の再評価を踏まえた、指定候補地の検討

やんばる地域の国立公園化のための検討
奄美地域の国立公園等による保全対策の検討

- 自然公園選定要領の見直し
- 国立・国定公園の再編・再配置、新規指定

奄美群島・やんばる地域にかかる検討状況について

- 国立・国定公園総点検事業における奄美群島・やんばる地域の自然環境の評価
- ・従来の大地形を中心とした評価に加え、生物多様性の観点も含め、全国の国立・国定公園の指定状況を比較評価。

→奄美群島・やんばる地域は、全国的な視点から保全を図るべき地域

- 亜熱帯性照葉樹林がまとまりをもって分布し、その規模は国内最大級。
(奄美大島中南部スタジイ林は約 30,000ha、山原山地スタジイ林は約 21,000ha)
- 照葉樹林やマングローブ林、干潟、サンゴ礁など亜熱帯地域を特徴づける多様な生態系がみられ、森－川－海の連続性が保たれている地域が存在。
- 地史を反映した多くの固有種、遺存種の生息地となっているなど、地史と生態学的過程の関係性や生物多様性の豊かさを実感できる地域として重要。
- エコツーリズムのフィールドとして広く認知。

■現地における検討状況

- ・奄美群島・やんばる地域では、学識経験者や関係行政機関からなる検討会を開催し、自然環境の保全と適切な活用を図るための検討を実施。

①奄美地域の自然資源の保全・活用に関する検討会

<検討内容等>

奄美地域の自然資源の保全・活用に関する基本的な考え方について検討中。

②やんばる地域の国立公園に関する検討会

<検討内容等>

検討会での議論等に基づいて、やんばる地域の国立公園に関する基本的な考え方について、平成20年3月に公表。今後その考え方に基づいて、指定区域やゾーニング等の検討を始める。